

インフルエンザ予防接種を受けられる方へ(説明文)

高齢者インフルエンザ予防接種は、自らの意思で接種を希望する方のみに行うものです。

1、インフルエンザとは

インフルエンザの症状は、普通の風邪に比べて全身症状が強い（高熱・関節痛）のが特徴で気管支炎や肺炎などを合併し、重症化するのも特徴です。高齢の方や、免疫力の低下している方は、肺炎を伴うなど重症化し、命にかかわる場合もあります。

2、インフルエンザ予防接種の有効性

ワクチンには発症を一定程度防ぐ効果、重症化（肺炎、脳症など重い合併症）や死亡を防ぐ効果があります。発病を完全に阻止する効果があるわけではありません。予防接種を受けてから十分な効果が続く期間は接種後約2週間後から約5か月間とされています。

3、インフルエンザ予防接種の副反応

注射部位に赤み・腫れ・痛み・微熱がでたり、寒気・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身のだるさなどがみられることがあります。通常2～3日のうちに治ります。また、接種直後から発熱・頭痛・発疹・蕁麻疹・けいれんの症状が現れる等の報告があります。非常にまれですがショック・呼吸困難・運動障害・神経系障害などがあらわれることもあります。

4、予防接種を受ける前に

予診票は接種を担当する医師への大切な情報を伝えるものです。必ず記入しましょう。

<接種を受けることができない人>

- ・当日明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ・重篤な急性疾患にかかっている人
- ・予防接種によってひどいアレルギー反応を起こしたことがある人

<予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人>

- ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ・予防接種で接種後2日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人
- ・今までにけいれんを起こしたことがある人
- ・今までに免疫状態の検査で異常を指摘されたことのある人
- ・鶏卵や鶏肉など、インフルエンザ予防接種の成分に対してアレルギーがあるといわれた人

5、予防接種を受けたあとの注意事項

- ・予防接種を受けた後30分間は医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ・副反応の多くは24時間以内に出現しますので、体調に注意しましょう。
- ・接種した日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ・接種当日はいつも通りの生活でかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ・万一、高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、医師の診察を受けてください。

6、健康被害救済制度

定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合（健康被害）は、法律に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。制度の利用を申し込むときは保健福祉課にご相談ください。（制度を利用するためには一定の条件があります。）